

# 高知県感染症発生動向調査(週報)

2010年第20週[5月17日～5月23日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター  
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869  
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>  
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

## 県内情報

### ○ 患者情報総評

#### 注意報発令疾患：手足口病、マイコプラズマ肺炎

- 曇りや雨の日が多く気温も上昇したため、蒸し暑く感じられる日が多かった。
- 感染性胃腸炎（中央西：注意報）は高知市と幡多で減少したが、その他の地域で増加または横ばいとなり、総数は引き続き増加した。
- 手足口病（中央西：警報→警報，高幡：警報，高知市：注意報，中央東：注意報）は安芸と幡多を除く地域で増加し、総数は前週の2.3倍増となった。
- ヘルパンギーナ（中央西：警報→注意報，安芸：注意報→注意報，高幡：注意報→注意報）は高知市と中央西で減少し、その他の地域で増加したため、総数は横ばいとなった。
- 水痘（幡多：警報→注意報）は中央東で横ばい、その他の地域で減少し、総数は前週の6割に減少した。
- マイコプラズマ肺炎（高知市：注意報）は高知市で4例報告があり、注意報値を超した。定点からのコメントにもマイコプラズマによる感染症が多数報告されており、注意が必要である。

上位疾患構成図

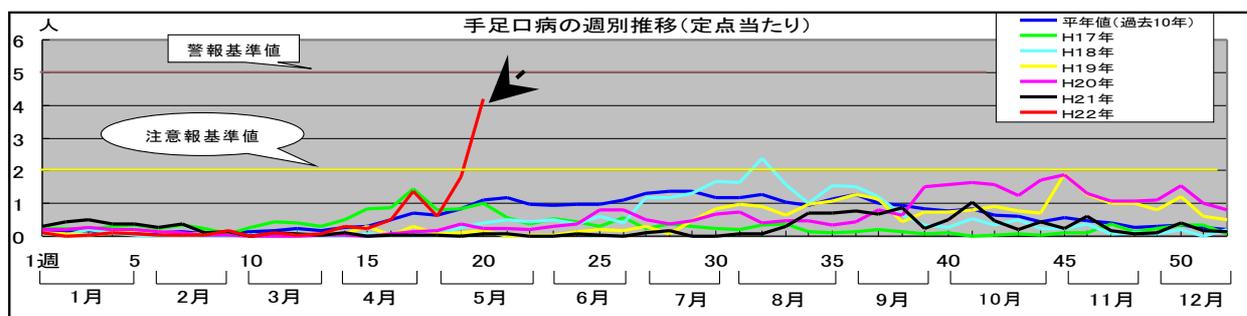


## 地域別感染症注意報・警報発生状況 第20報（2010年5月17日～2010年5月23日）



### 手足口病：今週4.20（注意報値：2.00 警報値：5.00）

総数は引き続き増加し、注意報値を大幅に超した。中央西と高幡では警報値を大幅に超し、高知市と中央東では注意報値を超している。過去5年間のデータをみると、県全体で注意報値を超したのは平成18年の第32週のみで大きな流行はみられていない。また、搬入された検体からはEnterovirus 71が1件検出されている。予後良好の疾患であるが、Enterovirus 71に感染した場合は、中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高いことが明らかとなっているため注意が必要である。



### ヒトメタニューモウイルス (hMPV) による県内初の集団感染事例

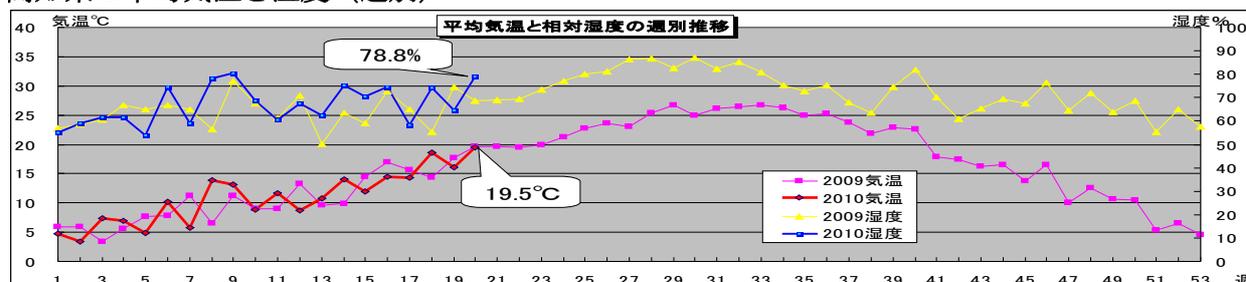
hMPVによる県内初の集団感染事例が中央西福祉保健所管内の保育園で発生した。hMPVは2001年にオランダで急性呼吸器疾患を呈した小児から分離された新しいウイルスでRSウイルスと同じ科に属している。臨床症状も類似しており、軽度の上気道炎から、気管支炎、肺炎まで様々である。今回の事例においても普通の風邪と診断された方が多く、ほとんどの発症者に38℃以上の高熱が認められ、肺炎が重症化し入院された方もいた。hMPVは重要な呼吸器感染症の原因ウイルスであることが最近わかってきたが、未だ不明な点も多い。人への感染は飛沫感染、手を介した接触感染が推測されているので、予防対策としてはインフルエンザと同様に「手を洗うこと」「咳エチケット」が非常に大切である。流行時期は3～6月の春が中心で、潜伏期間は4～6日、発症後2週間くらいはウイルスを排出するといわれているので、注意が必要である。

### 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス, 細菌の検出状況
9	RSウイルス感染症	2歳女	幡多	Coxsackievirus A9
9	RSウイルス感染症	2歳女	幡多	Coxsackievirus A9
9	RSウイルス感染症	2歳女	幡多	Enterovirus
13	ヘルパンギーナ	4歳男	高知市	Rhinovirus 90+Enterovirus
14	気管支炎	7ヵ月女	高知市	Adenovirus
15	感染性胃腸炎	4歳男	高知市	Coxsackievirus A5
15	手足口病	1歳男	高幡	Enterovirus 71
16	ヘルパンギーナ	3歳男	高幡	Coxsackievirus A5
20	感染性胃腸炎	6ヵ月男	中央東	Norovirus G II
20	感染性胃腸炎	11歳男	中央東	Norovirus G II
20	感染症胃腸炎	11歳男	中央東	Norovirus G II
20	感染性胃腸炎	1歳女	中央東	Rotavirus A群
20	感染性胃腸炎	2歳男	中央東	Sapovirus
20	感染性胃腸炎	5ヵ月女	中央東	Norovirus G II
20	感染性胃腸炎	2歳女	高幡	Norovirus G II
20	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12歳男	高知市	<i>Streptococcus pyogenes</i> T-1
20	肺炎	6歳女	高知市	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
20	百日咳	5歳男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

- 全数報告の感染症情報  
2類感染症：結核 1例 (47歳男) 《中央東》 (今年54例)

- 高知県の平均気温と湿度 (週別)



- 定点からの地域ホット情報

幡多:

《渭南病院小児科》: マイコプラズマ気管支炎 4例 (4, 10歳男, 12, 25歳女)  
マイコプラズマ感染症 2例 (1歳女, 8歳男)  
《木俵病院小児科》: 感染性胃腸炎の2例は60歳代男, 80歳代女

《さたけ小児科》：カンピロバクター腸炎 1例（9歳女）  
《松谷内科》：手足口病の小児1例（同保育園で先週も1例あった）

**高幡：**

《もりはた小児科》：カンピロバクター腸炎 1例（1歳男） 手足口病の流行をみる

**中央西：**

《くぼたこどもクリニック》：マイコプラズマ肺炎 1例（9歳女：佐川町）

**高知市：**

《福井小児科・内科》：マイコプラズマ感染症 1例（5歳女）

《けら小児科・アレルギー科》：ヘルペス性歯肉口内炎 3例（1歳男，1,7歳女）

**中央東：**

《早明浦病院小児科》：アタマジラミ 4例（某保育園：4～6歳男女） 水痘増加中  
感染性胃腸炎の10例中1例（1歳男）はロタウイルス陽性

**全国情報第17週（4/26～5/2）**（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核268例

3類感染症：細菌性赤痢4例、腸管出血性大腸菌感染症15例（有症者7例、うちHUS 2例）、腸チフス2例

4類感染症：A型肝炎3例、つつが虫病4例、日本紅斑熱1例、マラリア1例、レジオネラ症11例

5類感染症：アメーバ赤痢10例、ウイルス性肝炎（B型）1例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群12例（AIDS 3例、無症候7例、その他2例）、ジアルジア症5例、梅毒6例、破傷風1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、風しん1例、麻しん10例

報告遅れ：エキノコックス症1例、クリプトスポリジウム症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例

**全国情報第18週（5/3～5/9）**（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核111例

3類感染症：細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症16例（有症者12例、うちHUS 1例）

4類感染症：A型肝炎11例〔\*第10～18週の累積報告数は136例（劇症肝炎2例、うち死亡1例）となり、都道府県別では、福岡県23例、東京都18例、広島県18例、兵庫県9例、埼玉県8例の順に多い。広域アウトブレイクの可能性もあり、引き続き注意を要する。〕、つつが虫病1例、デング熱1例、マラリア2例、レジオネラ症4例

5類感染症：アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎（B型）2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群8例（AIDS 4例、無症候4例）、梅毒4例、風しん2例、麻しん3例

報告遅れ：コレラ1例、デング熱1例、日本紅斑熱1例、レジオネラ症1例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例

◆ 百日咳

感染症発生動向調査では、全国約3,000カ所の小児科定点からの報告数に基づいて百日咳の患者発生状況の分析を行っている。2010年第18週の週別の患者報告数は70例（定点当たり報告数0.02）であり、ゴールデンウィーク期間中であるにもかかわらず前週（第17週）の報告数（68例）をやや上回ったが、2008年、2009年の同時期の報告数を下回った状態が続いている。

都道府県別では、広島県11例、神奈川県10例、栃木県7例、千葉県7例、東京都7例、福岡県4例の順となっている（図2）。2010年第1～18週までの累積報告数は1,261例であり、2000年以降の過去11年間では、2009年

（1,723例）、2008年（1,670例）に次いで多い報告数となっている。年齢群別では、20歳以上56.8%（716例）、0歳10.5%（133例）、1歳4.5%（57例）、2～3歳6.5%（82例）、4～5歳6.1%（77例）となっている。20歳以上の報告割合は年々高くなってきていたが、2010年では50%を上回った状態となっている。累積報告数を男女別で見ると、男性41.5%（523例）、女性58.5%（738例）と女性の報告割合が高く、0歳児では男性の報告割合が高いものの、20歳以上では女性の報告割合が60%以上を占めている。

感染症発生動向調査における百日咳の患者報告数は、小児科定点からの報告であるにもかかわらず、2000年以降年々20歳以上の成人層からの報告割合が増加し、2010年では第18週までに報告数の半数を超える56.8%を占めている。

感染症情報センターでは、成人層を中心とした患者発生状況の実態をより明らかにすることを目的として、2008年5月から「百日咳DB：全国の百日咳発生状況」を立ち上げ、感染症発生動向調査とは別に解析を行っている。2008年5月8日から2009年12月28日までに同DBに報告された756例（後に百日咳を否定された2例を除く）においても同様に、20歳以上の報告数が多くを占めている。

百日咳は、現在でもワクチン未接種の乳児が罹患した場合には重症化が危惧され、かつては乳幼児を中心に夏季に流行する疾患であった。しかし最近では、成人層の患者発生の割合が年々高くなってきており、その詳細を明らかにするためには、現在の小児科定点による発生動向調査では不十分であると言わざるを得ない。また、既に米国等では思春期から成人層への百日咳対策としてワクチンの追加接種が実施されており、我が国においても早急に検討が必要と思われる。現状のままでは何等有効な対策が講じられなければ、今後は成人層を中心とした百日咳の流行が毎年継続的に発生し、それによってワクチン未接種の乳児への感染機会も増加することが懸念される。百日咳の今後の発生動向には注意が必要である。

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(19週)	高知県(20週未累計) H22/1/4~H22/5/23
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ									377 ( 0.08)	2,543 ( 52.98)
小児科	咽頭結膜熱								4 ( 0.13)	770 ( 0.25)	30 ( 1.00)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		4	20	3			27 ( 0.90)	24 ( 0.80)	5,010 ( 1.66)	425 ( 14.17)
	感染性胃腸炎	21	74	92	40	10	16	253 ( 8.43)	223 ( 7.43)	24,760 ( 8.19)	5,837 ( 194.57)
	水痘	3	5	20	2		12	42 ( 1.40)	70 ( 2.33)	7,327 ( 2.42)	748 ( 24.93)
	手足口病		21	53	32	18	2	126 ( 4.20)	54 ( 1.80)	2,251 ( 0.74)	293 ( 9.77)
	伝染性紅斑		2	3				5 ( 0.17)	5 ( 0.17)	705 ( 0.23)	44 ( 1.47)
	突発性発疹		4	3	3	2	1	13 ( 0.43)	23 ( 0.77)	1,766 ( 0.58)	203 ( 6.77)
	百日咳								2 ( 0.07)	134 ( 0.04)	19 ( 0.63)
	ヘルパンギーナ	6	10	17	9	5	8	55 ( 1.83)	58 ( 1.93)	1,093 ( 0.36)	266 ( 8.87)
	流行性耳下腺炎		2	3				5 ( 0.17)	8 ( 0.27)	4,105 ( 1.36)	90 ( 3.00)
	RSウイルス感染症									290 ( 0.10)	759 ( 25.30)
眼科	急性出血性結膜炎									13 ( 0.02)	2 ( 0.67)
	流行性角結膜炎			3				3 ( 1.00)	2 ( 0.67)	442 ( 0.65)	25 ( 8.33)
基幹	細菌性髄膜炎			1				1 ( 0.14)		14 ( 0.03)	4 ( 0.57)
	無菌性髄膜炎								2 ( 0.29)	15 ( 0.03)	6 ( 0.86)
	マイコプラズマ肺炎			4				4 ( 0.57)	1 ( 0.14)	175 ( 0.38)	24 ( 3.43)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			1				1 ( 0.14)	1 ( 0.14)	11 ( 0.02)	7 ( 1.00)
計 (小児科定点当たり人数)	30 ( 15.00)	122 ( 17.43)	220 ( 19.18)	89 ( 29.67)	35 ( 17.50)	39 ( 7.80)	535 ( 17.53)				
前週 (小児科定点当たり人数)	34 ( 17.00)	68 ( 9.71)	206 ( 18.18)	75 ( 25.00)	37 ( 18.50)	57 ( 11.40)		477 ( 15.70)	49,258	11,325 ( 343.45)	

定点当たり

第20週

定点名	医療圏 疾病名	安芸 医療圏	中央医療圏			高幡 医療圏	幡多 医療圏	計	前週	全国(19週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ									0.08
小児科	咽頭結膜熱								0.13	0.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.57	1.82	1.00			0.90	0.80	1.66
	感染性胃腸炎	10.50	10.57	8.36	13.33	5.00	3.20	8.43	7.43	8.19
	水痘	1.50	0.71	1.82	0.67		2.40	1.40	2.33	2.42
	手足口病		3.00	4.82	10.67	9.00	0.40	4.20	1.80	0.74
	伝染性紅斑		0.29	0.27				0.17	0.17	0.23
	突発性発疹		0.57	0.27	1.00	1.00	0.20	0.43	0.77	0.58
	百日咳								0.07	0.04
	ヘルパンギーナ	3.00	1.43	1.55	3.00	2.50	1.60	1.83	1.93	0.36
	流行性耳下腺炎		0.29	0.27				0.17	0.27	1.36
	RSウイルス感染症									0.10
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎			3.00				1.00	0.67	0.65
基幹	細菌性髄膜炎			0.20				0.14		0.03
	無菌性髄膜炎								0.29	0.03
	マイコプラズマ肺炎			0.80				0.57	0.14	0.38
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)			0.20				0.14	0.14	0.02
計 (小児科定点当たり人数)	15.00	17.43	19.18	29.67	17.50	7.80	17.53			
前週 (小児科定点当たり人数)	17.00	9.71	18.18	25.00	18.50	11.40		15.70		

